

第二考査 世界史B 問題用紙

I. []に適語を入れ、下線部について設問に答えよ。

①イスラーム教を開いたムハンマドはメッカでの迫害を逃れ、[1]年その拠点メディナに移した。これを[2]とよんでいる。かれは布教活動を②征服戦争と一致させて支配地を拡大、その死後も征服戦争をすすめ、8世紀にはイベリヤ半島から ③中央アジアにいたる大帝国となった。

彼の死の直後は[3]とよばれる後継者を選挙で選んでいたが、7世紀中期にはシリア総督[4]が後継者の地位を奪い後継者の地位を世襲化し、首都[5]をにうつした。こうした経過のなかでイスラーム教はスンナ派と④シーア派に分裂した。

750年成立した[6]朝は、⑤それ以前とは組織原理を大きく変えておりイスラーム帝国とよばれる。この王朝は8～9世紀には[7]のもとで全盛期をむかえた。しかし9世紀以降、領内の各地にイラン人や⑥トルコ人による地方軍事政権が成立、945年西イランの⑦ブワイフ朝が入城するにいたって君主は政治的権力を失い、1055年に入城した⑧セルジューク朝は⑨スルタンの地位を獲得した。

13世紀になると東から[8]が侵入してこの王朝を滅ぼし⑩イル＝ハン国をたてた。

<設問>

①イスラーム教の教典の名前をいえ。

②この征服戦争について記した以下の文のうちから誤りを含むものを1つ選び記号で答えよ。

- (ア) 彼らは、「イスラーム教か剣か」と激しく改宗を厳しく迫り、拒否するものを迫害した。
- (イ) この戦争は、アラブ人の移住活動の一環としてとらえることができる。
- (ウ) 異教徒は人頭税と地租を納入すればその信仰は認められた。
- (エ) かれらはこうした戦いを神のための「聖なる戦い」(ジハード)とよんだ。

③(1)中央アジアのタラス河畔でイスラーム勢力とたたかった中国の王朝を選び記号で記せ。

- (ア) 秦 (イ) 漢 (ウ) 隋 (エ) 唐 (オ) 宋 (カ) 明 (キ) 清

(2)このとき、イスラーム世界に伝わった技術は何か。

④シーア派について正しく記した文を1つ選び記号で記せ。

- (ア) この宗派では、イスラーム世界の最高指導者は選挙で選ばれるべきだと考えられている。
- (イ) この宗派は預言者の血統を引き継ぐものをイスラームの正統な指導者と見なしている。
- (ウ) シーア派は主にトルコ人の間に広がっていった。
- (エ) 勢力の衰えたスンナ派に対し、この宗派は現在のイスラーム世界の多数派となっている。

⑤イスラーム帝国とこれ以前の王朝の組織原理の違いを説明せよ。(公開問題！)

⑥イスラーム帝国で多く用いられた奴隷出身のトルコ人兵士の名を記せ。

⑦この王朝は以後のイスラーム世界に大きな影響を与える、俸給の代わりに軍人に土地の徴税権を与えるという制度を始めた。この制度の名をいえ。

⑧この帝国が各地に設立し神学と法学を研究した学院を何というか。下から選び記号で記せ。

- (ア) アズハル学院 (イ) ナーランダ僧院 (ウ) ムセイオン (エ) ニザーミーヤ学院 (オ) アカデミア

⑨スルタンについて説明せよ。

⑩イスラームを国教としイラン＝イスラーム文化の黄金期を迎えたこの国の全盛期の王を選び記号で記せ。

- (ア) ティムール (イ) チンギス＝ハン (ウ) カザーリー (エ) ニザーミーヤ (オ) ガザン＝ハン

Ⅱ、[]に入れるべき適語を語群より選び記号で記せ。(数字は自分で考え入れること)また下線部について下記の問いに答えよ。

イスラーム世界は西方にも拡大し、ついにはユーラシア大陸西端のイベリア半島に進出、さらに①フランスにも侵入した。その後、この地には[1]を首都に後ウマイヤ朝が成立した。しかし②キリスト教勢力がこの地を取り戻そうとするなか、イスラームとの争いがつづくことになる。このたたかいの中心となったのが北アフリカの[2]人たちである。しかし、この半島でのイスラーム勢力はしだいに追いつめられ、12世紀末には③最後の拠点グラナダが陥落、この地のイスラームの歴史は終わった。

また10世紀初北アフリカのチュニジアで建国した[3]朝はエジプトに進出した。こののち、この地域には十字軍からイスラームを守った英雄[4]が12世紀中期に建てたアイユーブ朝を建て、13世紀中期にはトルコ系の[5]朝が成立した。

他方、イスラームは東方にも広がっていった。イスラーム教徒は④サハラ砂漠や絹の道などを經由した活発な隊商貿易を展開する一方、海の道などを舞台に中国、東南アジアから⑤東アフリカ、ヨーロッパにいたる活発な海上貿易を展開、各地に居留地を形成、⑥モスクを建て、それを拠点にイスラームを広げていった。こうしたイスラームの拡大で大きな役割を果たしたのが⑦イスラーム神秘主義者であった。このような積極的な活動の中、⑧イスラーム文化が開くことになる。

(ア)アルハンブラ (イ)ファーティマ (ウ)ガズナ (エ)ヴァンダル (オ)マムルーク (カ)ベルベル (キ)カイロ
(ク)サラディン (ケ)フランク (コ)トレド (サ)コルドバ (シ)プワイフ

①フランスでのイスラーム勢力とフランク王国との間でたたかわれた戦いの名をいえ。

②このような運動をどのようにいうか。その名を記せ。

③この地に残されたスペイン＝イスラーム文化の代表的な建造物の名をいえ。

④サハラ以南に成立した王国を古い順に並べた場合どのようになるか、記号で記せ。

(A)ソングアイ王国 (B)ガーナ王国 (C)マリ王国

⑤東アフリカでアラビア語の影響を受け成立した言語は何か。下から選び、記号で記せ。

(ア)ウルドゥー語 (イ)ヒンディー語 (ウ)バントゥー語 (エ)ラテン語 (オ)スワヒリ語

⑥モスクの略図を書き、その特徴を2点文字で指摘せよ。

⑦イスラーム神秘主義について正しく説明したものを1つ選び、記号で記せ。

(ア)この教義を信仰するインド人たちは12イマーム派とよばれる教団を形成した。
(イ)コーランの文句や踊りを繰り返すことなどを通して神との一体感を図ろうとした。
(ウ)神学者であるガザン＝ハンはこの教義を体系化した。
(エ)復古主義的、原理主義的性格が強く、「コーランの教えに帰れ」と主張した。

⑧イスラーム文化を説明した以下の文で誤りを含むものを1つ選び記号で記せ。

(ア)イスラーム文化はインドから「ゼロ」の観念を学んだり、ギリシアから哲学や医学を学ぶなど融合的な性格が強い。
(イ)イスラーム寺院には、巨大なアッラー神像やムハンマド像がまつられ、祭日には多くの花や食物が捧げられる。
(ウ)西ヨーロッパではトレド大学などでイスラームの文献をラテン語に翻訳し、その文化を大いに取り入れた。
(エ)金を化学的手法で作ろうとする錬金術は失敗の連続ではあったが、化学の発展には大きく寄与した。

Ⅲ、[]に入れるべき適語を語群から選び記号で記せ。下線部について設問に答えよ。

1世紀初のコダヤの地で生まれた①キリスト教は、ローマ帝国から迫害を受けることもあったが、しだいに帝国内に根を下ろし、②313年、「 1 」勅令で皇帝から公認されるに至った。

ローマ帝国時代、キリスト教には五つの主要な教会があったが、③帝国が分裂・衰退していく中、ローマ教会はしだいにキリスト教における首位権を主張、「普遍的」という意味の[2]教会と自称するようになった。しかし西ローマ帝国滅亡後、この教会は④ゲルマン人やケルト人への布教をすすめた。ローマ＝カトリック教会は⑤フランク王国との結びつきを強める中、しだいに⑥西ヨーロッパ世界に精神的権威を確立するようになっていった。教会制度も整備された。しかし、教会や⑦修道院に土地の寄進が集中するなか教会内の世俗領主化もすすんだ。10世紀、フランスの[3]修道院は教会改革運動を開始し、これをうけ教皇[4]も教会改革をすすめたため、⑧皇帝との間で⑨聖職叙任権闘争が発生した。

(ア)グレゴリウス7世 (イ)インノケンティウス3世 (ウ)クレルモン (エ)クリュニー (オ)ミラノ (カ)カトリック

<設問>

①(1)キリスト教の成立について記した以下の文で誤りを含むものを記せ

- (ア)イエスが生まれた頃、ユダヤの地はローマの支配下にあり、救世主待望の空気が強かった。
- (イ)イエスは人々に律法の遵守をせまり、守れないものに神の愛はないと祭司の墮落を強く批判した。
- (ウ)イエスは強く選民思想を説き、身分、民族、性別、職業などを超越した無差別の愛であると説いた。
- (エ)ユダヤ教の指導層たちは、ローマ帝国の手でイエスを十字架にかけ処刑させた。
- (オ)イエスの信者たちは、イエスの復活を主張し、ローマ帝国各地にキリスト教を伝えた。

(2)イエスや使徒と呼ばれる弟子たちの言行や書簡を収めたキリスト教の教典を何というか。

②この皇帝が主宰し325年開催されたニケーア宗教会議の内容を正しく記した文を1つ選べ。

- (ア)キリストは神に近いが人間であるという考え方は異端として退けられた。
- (イ)キリストは神の要素と人間の要素の両方をもつという考え方を採用した。
- (ウ)父なる神と子なるイエスは同質であるという考え方を採用した。
- (エ)ネストリウス派を正統な教義として認めた。
- (オ)ローマ教会とその首長の教皇こそが神と人とを結ぶ存在であるとした。

③こうしたなか、キリスト教への批判にたいし「神の国」を著しキリスト教の正当性を主張した人物の名をいえ。

④ゲルマン人やケルト人への布教を中心になってすすめた教皇はだれか。

⑤フランク王国について記した以下の文章の空欄に入れるべき適語を語群から選び記号で記せ。

この国はクローヴィスがフランク族を統一して成立した。8世紀には宮宰[A]がイベリア半島から侵入したイスラム教徒を破り、その子が教会の支持を得て王位を奪い[B]朝を開いた。その後、800年には、この国の王カールが[C]の冠を受け、西ヨーロッパ世界が成立したとされる。その後、ヴェルダン・[D]の2つの条約でこの国は3つに分裂、現在のフランス、イタリア、ドイツができる。

- (ア)トゥール=ポワティエ (イ)カール=マルテル (ウ)メルセン (エ)カロリング (オ)メロヴィング (カ)ピピン
- (キ)マイセン (ク)ローマ皇帝 (ケ)ローマ教皇

⑥西ヨーロッパ世界は3つの異なった起源をもつ3つの要素が融合することによって成立したといわれる。その3つを要素を記せ。

⑦イタリア中部にモンテ=カッシーノ修道院を開き、修道院隆盛の基礎を作った人物の名をいえ。

⑧皇帝とは神聖ローマ皇帝を指している。それについて記した以下の文章の空欄に適語を入れよ。

神聖ローマ皇帝とは、東フランク([A])王[B]が教皇から獲得した地位が起源であり、西ローマ皇帝の後継者として西ヨーロッパで最も権威のある地位である。

⑨聖職叙任権闘争について記した以下の文中で誤りを含むものを指摘せよ。

- (ア)司教や修道院長などの聖職は王や皇帝など世俗領主によって任命されることが多かった。
- (イ)教皇が聖職叙任権を否定したことに反対した皇帝ハインリヒ4世は教皇から破門された。
- (ウ)皇帝はドイツ国内の諸侯の支援を受け、教皇と激しく争ったが敗北、教皇に屈服した。これをカノッサの屈辱(カノッサ事件)という。
- (エ)こののちも王と教皇の対立は続くが、1122年のウォルムス協約で妥協が成立した。

IV、文中の[]内に入れる適語を記せ。また下線部について設問に答えよ。

封建的主従関係とは主君が[1]をあたえ保護することとひきかえに、家臣が[2]を中心とする忠誠を誓うという契約関係によって成立した主従関係である。当初は個別領主間の関係であったがだいに世襲化がすすみ、それぞれの領主は荘園とよばれる封土(領地)世襲化、領主は①農奴と呼ばれる農民に対して[3]権を行使する一方、外部の勢力には[4]権を主張、外部の介入を排除した「独立した小国家」という性格をつよめた。

(設問) 次の項目のうち、奴隷と比較して農奴にのみ存在するものをあるだけ選び、記号で記せ。

- (ア)移転の自由があった。 (イ)家畜同様の扱いを受け働いても生活が楽になる可能性は全くなかった。
- (ウ)主人に売買された。 (エ)家や家族を持つことができた。 (オ)領主のもと強制的に働かされた。
- (カ)自由に仕事を変えることができなかった。 (キ)自分のものとしてつかえる土地があった。

V、文中の[]内に入れる適語を記せ。なお適語が語群にあるときはそれを用いよ。また下線部についての設問に答えよ。

ブリタニアの名が歴史上現れるのは、前1世紀ガリア地方を平定したカエサルがこの地に上陸、南部をローマ領に組み入れて以後である。

4世紀、①ゲルマンの大移動が始まると、ブリタニア南東部のイングランドにはドイツ北部から[1]族が移動、七王国(ヘプターキー)を建国した。8世紀後半になると、②ノルマン人が、ヨーロッパ各地での活動を活発化したがブリタニアは格好の目標であった。その侵入は9世紀頃から本格化し、1016年、イングランドはデン人の王[2]によって征服され海上帝国の一部に組み込まれた。その後、いったん国土を回復したが、③11世紀中期になって[3]公国のノルマン人の攻撃を受け侵入を受け1066年占領された。

エグバート リューリク クヌート アルフレッド ウィリアム ロロ アイルランド スコットランド

①ゲルマン民族大移動のきっかけを作ったアジア系民族の名をいえ。

②ノルマン人について記した以下の文のうち、誤りを含むものを1つ選び記号で記せ。

(ア)スカンジナビアに拠点をおくゲルマン人である

(イ)「入り江の民」という意味でヴァイキングともよばれた。

(ウ)かれらは海賊や略奪をくりかえしながらヨーロッパ各地へ進出した。

(エ)かれらの一部は大西洋を横断し、グリーンランドや北アメリカへも到達した。

(オ)かれらはキリスト教化し、原住地にスウェーデン、ノルウェー、フィンランドを建てた。

③このことを何というか。記せ。

VI、次の文章中の[]に入れるべき適語を語群から選び記号で記せ。ただし【 】は自分で考えて記せ。

< A > 都市国家ローマでは前5世紀の[1]法以来ローマ市民だけに適用される家族法中心の[2]法が発達した。しかし支配権の拡大とともに支配下の諸都市の市民とローマ市民の商取引などを規制するため、他民族の慣習なども吸収しつつ、ローマ支配下の全民族に共通する法として発達、しだいにストア派哲学の[3]法の考えを吸収していった。こうした法律やその理論は6世紀、東ローマ帝国のユスティニアヌス帝のもと、トリボニアヌスらの手により【 a 】として編纂され、近代法の基礎として大きな役割をもった。

(ア)自然 (イ)万民 (ウ)十二表 (エ)市民 (オ)リキニウス

< B > イラン高原では前4世紀後半以来、ギリシア人による[4]朝シリアが成立していた。前3世紀、アルサケスがイラン高原に[5]を立てた。3世紀、この国に変わって、イラン高原を支配したのは[6]系イラン人がたてたササン朝ペルシャである。3世紀の王[7]はローマ皇帝ヴァレリアヌスをとらえるなどこの国は大きく力を伸ばした。その後、中央アジアの遊牧民[8]の侵入に悩まされたが、6世紀には全盛期をむかえた。

この時期、イラン民族文化がおおいに発達した。【 b 】教が国教とされ經典のアヴェスタも成立した。

(ア)遊牧 (イ)農耕 (ウ)クテシフォン (エ)セレウコス (オ)エフタル (カ)マニ (キ)シャープール1世 (ク)ホスロー1世